

コミュニティMefu
売布 21

地域ごとのまちづくり計画

(売布小学校区まちづくり協議会)



令和2年(2020年)3月策定

目 次

【はじめに】	1
【現状と課題】	2
【 ^{まち} 地域の将来像】	4
【基本目標】	4
【具体的な取り組み】	6
【あとがき】	10
【資料】	12

【はじめに】

売布小学校区は宝塚市の中心部から東方約 2 km に位置し、東西約 2 km、南北約 2.5 km でエリア面積はおよそ 2.5 平方キロメートルで、その中心に小学校があります。

校区内には、古墳が多く存在し、古くから人々が居住していた地域であり、江戸時代には、一帯は米谷村と称され米作りが盛んな地域でした。校区を東西に貫いている巡礼街道は、諸説ありますが、箕面勝尾寺から有馬街道との分岐点である清荒神参道入口東方までと考えられています。街道沿いに鎮座する売布神社は大国主命の御子である高比売神（下照比売神）とその夫の天稚彦神を「衣・食・財」の守護神として祀り、今も多くの人たちに信仰されています。

もう一つの古刹、清荒神清澄寺は、宇多天皇の創意によって、寛平 8 年（896 年）に創建。火の神・台所の神として信仰を集め、古くから「荒神さん」と親しまれてきました。当時は旧清シと呼ばれた地に清澄寺を、西の谷に三宝荒神社を祀っていましたが戦国時代の戦火によって、何度も消失しましたが三宝荒神社のみは難を免れ、清澄寺も西の谷である今の地に再建されました。旧清シ（今の売布きよしガ丘）の金堂跡地は、宝塚が一望できる見晴らしの良い公園に整備され、地域の皆さんの憩いの場として受け継がれています。

明治 41 年に大阪と宝塚を結ぶ箕面有馬電気軌道（現阪急電車）の開通を機に、一気に開発が進んでいきました。豊かな自然と歴史を有するこの地域は、良好な住宅地として注目を浴び、高度経済成長期には大規模な住宅開発が進み、駅前の商店街も賑わいました。

しかし、バブル崩壊とともに駅前商業地域は停滞を始め、追い打ちをかけるように 1995 年の阪神淡路大震災により壊滅的な打撃を受けましたが、地元商業者・住民・行政が一丸となって、売布神社駅前の復興再開発を成し遂げました。以後、山手で新たな住宅地開発などもあり、校区人口は漸増傾向にあります。

このたびのまちづくり計画改定にあたりもっとも重視した点は、新しく住民になられた方をはじめ多世代の意見を集約することでした。5 年後、10 年後を見据えたまちづくりはこの方たちの行動力なくしては実現できないと考えたからです。アンケート調査やさまざまな会合で、校区内の自治会・PTA・売布小児童ほか各種団体が「こんなまちになったらいいな」という思いを出し合いました。それらをまとめて、まちの将来像に掲げ、課題や実現に向けた取り組みを検討しました。

さまざまな不安・課題は一気には解決できませんが、より多くの人々が「このまちはいい」と思うことが増えることをめざして、この計画書を作成しました。

【現状と課題】

売布小学校区には、13,000人を超える人が暮らしています。山側で住宅地が開発され、人口は増加してきました。65歳以上の高齢者が増えています。14歳未満の子どもの数も増えています。

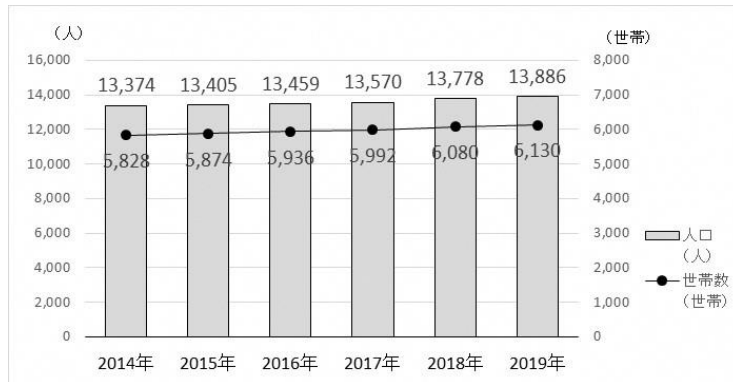
売布小学校4～6年生とその保護者にアンケート調査をしたところ、住んでいるまちの好きなところは、「静か」「緑が多い」「景色がよい」「駅に近い」が多くなっています。

地域の課題として「坂道」が指摘されています。急傾斜地では土砂災害警戒区域があります。山の手には循環バスが走っていますが、利便性に課題があります。山の手住宅地の高齢者にとっても、住み続けられるまちであってほしいと思います。

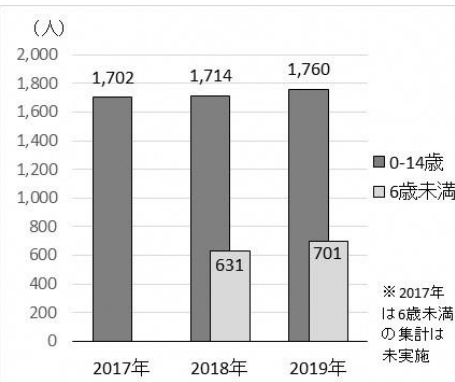
また、駅前のピピア売布の空き床が目立つようになってきました。アンケート調査でももっとお店があったらよいのという声があります。校区内に公共的な施設が多数整備されていますが、子どもにとって遊びやすい公園が少ないという指摘もあります。

校区中央に立地する売布小学校に併設してコミュニティの中核施設がありますが、建物の老朽化に伴い閉鎖となり、コミュニティの中核施設のあり方が問われています。

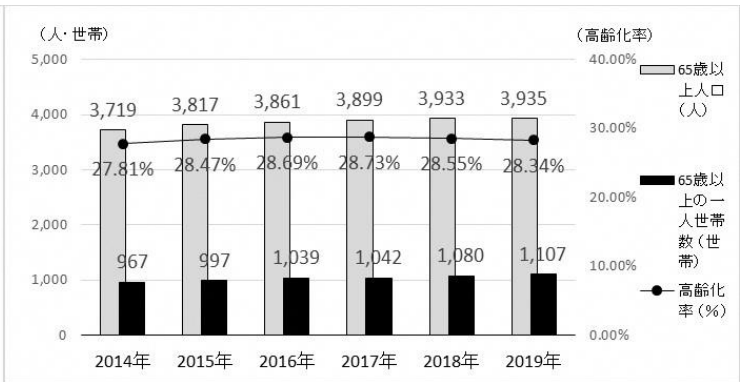
売布小学校区の人口・世帯数の推移



14歳以下の子どもの数の推移



65歳以上人口・65歳以上の一人世帯数・高齢化率の推移



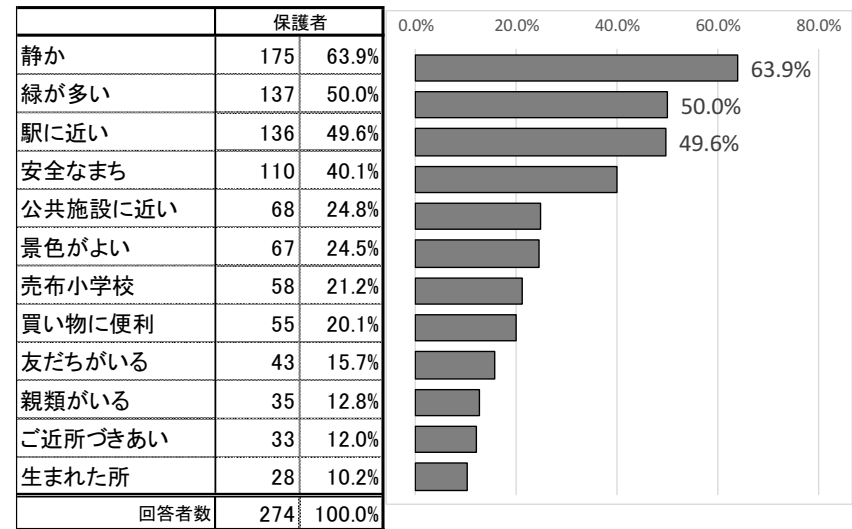
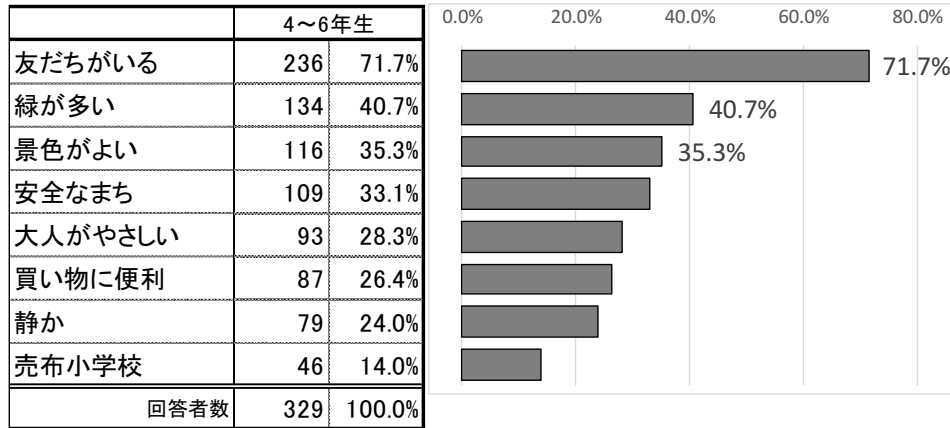
資料：各年3月末日 住民基本台帳（まち協別集計）

地域の気になるところ（2018年 売布ネットワーク会議等）

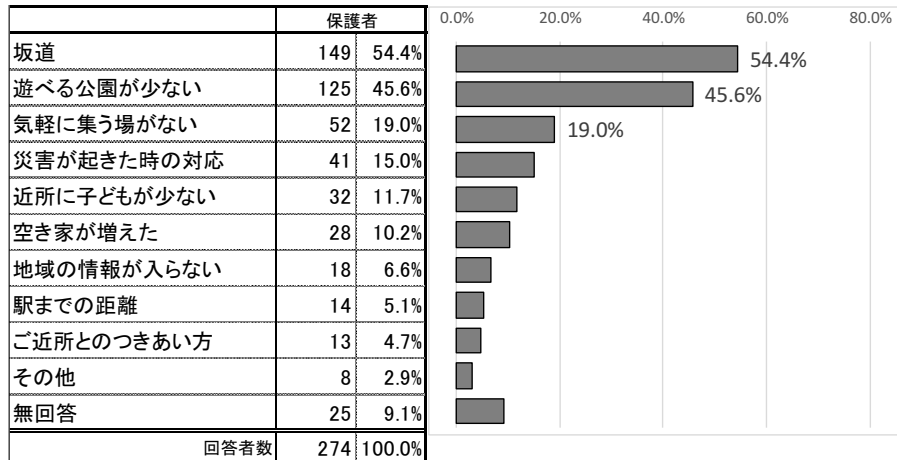
自然・文化・まち	人・コミュニティ	防災・防犯・交通
地域資源を活かしきれていない	高齢化、独居者の増加、見守り	坂道 山手は交通不便 災害発生不安
犬・猫のフン	新旧住民の交流	狭い道路 車の通り抜け 交通量増
空き家の増加	世代間交流	駅前駐輪
活動拠点が少ない（山手）	自治会加入促進	夜間暗い道・場所 下校時の見守り

売布小学校 4～6 年生、保護者へのアンケート調査結果（2018 年実施）

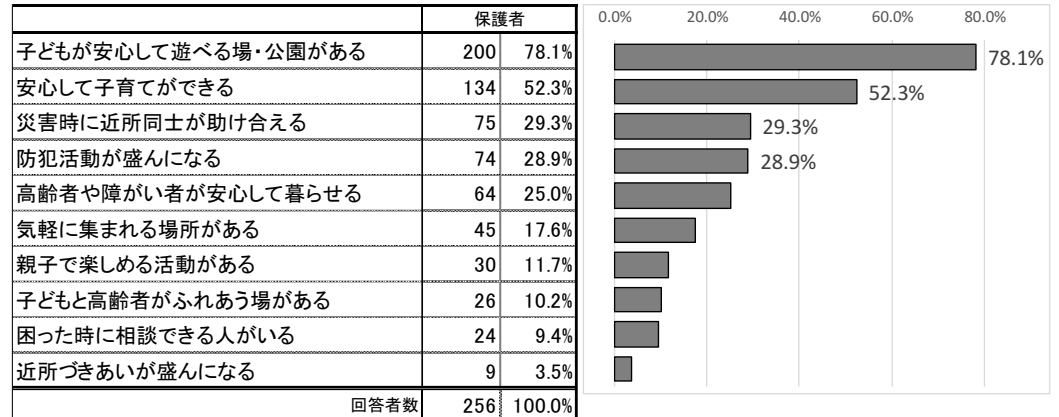
あなたが住んでいるまちの好きなところ（複数回答）



売布小学校区に住んでいて気になること・困っていること



売布小学校区がどんなまちになったらいいか



まち
【地域の将来像】

美しい住環境と豊かな交流を育てるまち

北側に中山、長尾山の緑豊かな山地があり、身近に自然と親しめる登山路、散策路が整備されています。山中には年間 307 万人の参拝者が訪れる清荒神清澄寺があり、緑の景観を楽しむ参道にはユニークな土産店が並んでいます。校区の中央部に売布神社の鎮守の森、カトリック宝塚黙想の家の庭園、菰池の広がりのある空間が並列しており、まちのシンボリック的存在となっています。売布神社は 605 年に創建された延喜式内神社で、長い歴史を誇っており、例祭であるだんじり祭が継承されています。西国三十三か所の観音霊場巡りの道である「巡礼街道」も校区を横断し、歴史のロマンが実感できる地域でもあります。このような売布の地域特性を活かし、住民一人ひとりがそれぞれに、お互いを尊重し、誰もが暮らしやすい、安全・安心で美しいまち、人と人の豊かなふれあい・交流が育まれるまちであってほしいとの思いを込めています。



【基本目標】

みんなでつくりあげる豊かな自然と文化の香りがするまち

地域が継承している歴史・文化（巡礼街道、八角古墳、盆踊り、祭、だんじりなど）を若い世代や新しく売布に転入された人にも知ってもらい、地域への理解と愛着を深めてもらうため、あらためて地域資源を調査し、紹介する取り組みを行います。このまちに残る原生林を始めとする自然環境を市や専門家と連携して、保護と環境整備を行うとともに、身近な自然と日常的に親しむことができる取り組みを実施します。

《取り組み方針》

1. 地域資源を活かす取り組みの強化
2. 住環境の管理・活用の取り組み強化
3. 環境配慮行動の推進
4. 「文化」を活かしたつながりの強化

《5年後の達成目標》

身近な歴史や自然、文化を知る機会の増加
地域の資源をみんなで育て・楽しむ機会の増加

地域でさまざまな文化活動をしている人がそれぞれの成果を発表し合い場を広げ、観て聴いて楽しむ、自分もやって楽しむ、やっている人を応援して楽しむ文化の輪を広げて行きます。また、豊かな自然を今後も良好な状態で守っていくために、どのような手法があるのかを検討し、具体的な取り組みにつなげていきます。

ふれあい・おもいやりに満ち、コミュニケーションのあるまち

多様な世代が暮らしているまちであることを踏まえ、赤ちゃんから高齢者まで多世代が気軽に参加できる行事に取り組み、思いやり・ふれあいのある風土を継承します。特に、子どもと高齢者が関わり合う場づくり、中学生から大学生が地域と関わる場づくり、介護や障がいによって地域に参加しにくい人とのつながりづくりに重点を置き、事業の見直し・新規の取り組みの検討を行います。また、情報の受発信機能を高め、豊かなコミュニケーションのあるまちづくりを進めます。

そのために、全ての世代の人々が集い、活動する拠点を確保します。自治会・マンション、各種団体、活動者、事業者の連携を強化するとともに、中・高・大学生などの若い世代や子育て世代が参加しやすい場をつくり、幅広いコミュニケーションの輪を拡げます。

《取り組み方針》

1. コミュニティの拠点のあり方の検討
2. 地域自治のあり方の見直し
3. 多世代が交流できる場づくり
4. 子どもの豊かな体験の場づくり
5. 中・高・大学生の居場所・活躍の場づくり
6. 豊かな人のつながりがあるまちづくり
7. さまざまな人が活躍できる地域づくり
8. 地域情報の共有と発信力強化

《5年後の達成目標》

多様なコミュニティ拠点の確立

地域のみんで支え合う安全安心に暮らせるまち

このまちは、古くから集落があった地区と新しく開発された地区とがあり、狭く入り組んで車が通りにくい道や暗く人通りの少ない道、急な坂道、まちを横断する国道 176 号など、防犯・交通面でのさまざまな課題があります。自治会や小学校、行政と連携して、定期的な安全点検、啓発活動を行うとともに、課題を 1 つ 1 つ解決できるよう働きかけに努めます。

阪神・淡路大震災後は、災害に強いまちづくりが進められてきましたが、土砂災害警戒区域となっている住宅地もあります。今後も自然災害の発生は避けて通ることはできないため、自主防災会やまち協、小学校や事業所などが連携して、一人ひとりがいつでもどのような災害にあっても命を守る行動ができる防災意識を定着させるとともに、みんなで協力し合って地域の中で取り残される人が出ないような地域づくりを進めます。

《取り組み方針》

1. 地域の防災力向上
2. 安全な地域づくり
3. 一人ひとりが守る交通規則

《5年後の達成目標》

1,000 人参加の防災訓練の実施

【具体的な取り組み】

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール（西暦）					役割分担（協働の領域）				備考			
				20年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政		④ 主に 行政		
					21年	22年	23年	24年	25年							
1. みんなでつくりあげる豊かな自然と文化の香りがするまち	1. 地域資源を活かす取り組みの強化															
	1	組織づくり（まち協部会の立上げ、部長・サブリーダー探し）		○	→								○			部の新設
	2	活動者の募集・情報発信（2, 7, 2、2, 8, 2で展開）		○	→								○			
	3	売布の歴史情報の再整理・発信（巡礼街道等）		○		→							○			新設部歴史チーム 宝小コミュニティ等との連携
	4	トレイルマップづくりとまち歩き・山歩きイベント（ファミリー健康ハイク）の実施		○		→							○		新設部自然チーム 福祉・健康推進部との連携	
	2. 住環境の管理・活用の取り組み強化															
	1	公園・緑地の利活用調査（まち歩き）（菰池・ロータリー・きよしガ丘から開始）		○		→							○		自治会・まち協	
	2	公園・緑地の管理のあり方検討		○		→							○			
	3. 環境配慮行動の推進															
	1	エコバッグの普及運動（啓発活動・イベントでの配慮）		○		→							○		商業者との連携 新設部環境チーム	
	2	各種イベントでの配慮の検討・実施・拡大		○		→							○		新設部環境チーム	
	4. 「文化」を活かしたつながりの強化															
	1	はるかぜコンサート	○		→							○			地域交流部会、音楽活動グループ	
	2	文化的・芸術的イベントの開催に向けた検討		○	→								○			

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール（西暦）					役割分担（協働の領域）				備考	
				20年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政		④ 主に 行政
					21年	22年	23年	24年	25年					
2. ふれあい・おもいやりに満ち、コミュニケーションのあるまち	1. コミュニティの拠点のあり方の検討													
	1	拠点づくり実行委員会の立上げ		○	→							○		
	2	既存施設の有効活用の検討 (関係機関との検討、等)		○	→							○		
	3	売布小学校区内拠点情報の共有		○								○		
	4	空き家・空き地の利活用の検討		○	→							○		
	5	拠点づくりの具体案の検討 (場所、機能、資金、等)		○								○		
	2. 地域自治のあり方の見直し													
	1	自治会・まち協連絡会の開催		○	→							○		
	2	ネットワーク会議の有効活用	○		→							○		
	3	まちづくり計画の見直し会議	○		→							○		
	3. 多世代が交流できる場づくり													
	1	夏祭りの実施	○		→							○		開催場所の協議要
	2	もちつき大会の実施	○		→							○		開催場所の協議要
	3	スポーツ・レクリエーションの実施 (体験会、多世代交流大会、等)	○		→							○		福祉・健康推進部、 スポーツ21
	4	寺子屋づくり (小学生対象で検討後、対象拡大)		○	→							○		21年夏にモデル事業実施、課題・成果を確認後方針決定
	4. 子どもの豊かな体験の場づくり													
	1	夏祭り親子工作教室	○		→							○		まち協、おやじの会
	2	めふっこまつり		○	→							○		実行委員会
	3	売布小ひろば（実施場所の検討、場所が確定したら継続）	○		→	→	→	→	→			○		出前児童館型
	4	売布小防災訓練（小学3年生対象） （小学校の授業の一環として実施）	○		→							○		売布小学校、防災部、消防署、市
5	コミュニティ・スクールへの協力		○	→							○		主催：小学校	

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール（西暦）					役割分担（協働の領域）				備考	
				20年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政		④ 主に 行政
					21年	22年	23年	24年	25年					
2. ふれあい・おもいやりに満ち、コミュニケーションのあるまち	5. 中・高・大学生の居場所・活躍の場づくり													
	1 若者のフリースペース確保の検討 (駅・ユープ・ピピア・売布会館等) (2.1.1と連携)		○	→								○		拠点づくり実行委員会として実施
	2 寺子屋運営応援団づくりの検討 (2.3.4と連携)		○	→								○		課題・成果を確認後方針決定
	3 若者の参加のきっかけづくりの提案 募集・実施 (例：避難所お泊り体験の実施、等)	○		→								○		2019年e-スポーツ体験会実施
	6. 豊かな人のつながりがあるまちづくり													
	1 校区ネットワーク会議の開催 (情報交換、課題の共有)	○		→								○		地域交流部
	2 サロン・クラブ活動調査・紹介 (ホームページ、PR紙、等) (1.1.3と連携、2.8.3へ移行)		○	→								○		
	3 健康づくり教室	○		→								○		福祉・健康推進部
	4 いきいき食事会(対象：65歳以上)	○		→								○		福祉・健康推進部
	5 いきいき学習会(対象：65歳以上)	○		→								○		福祉・健康推進部
	6 ふれあいバス旅行(対象：独居高齢者)	○		→								○		福祉・健康推進部
	7. さまざまな人が活躍できる地域づくり													
	1 ボランティア養成講座(見守り活動、障がいへの理解、担い手発掘)	○		→								○		福祉・健康推進部
	2 売布のボランティア登録制度の検討 (1.1.2の継承)		○	→								○		新設部の活動者募集から展開
	8. 地域情報の共有と発信力強化													
	1 広報紙「めふひろば」の発行	○		→								○		広報部
	2 ブログ・ポータルサイトの充実 (1,1,2、2,6,3との連携)	○		→									○	広報部
	3 行事告知の充実	○		→							○			広報部

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール（西暦）					役割分担（協働の領域）				備考	
				20年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政		④ 主に 行政
					21年	22年	23年	24年	25年					
3. 地域のみんなで 支え合う安全安心 に暮らせるまち	1. 地域の防災力向上													
	1 地区リーダー育成研修会		○	→					○				防災部	
	2 避難所開設・運営マニュアルの作成	○		→							○		防災部	
	3 売布小学校区地区防災計画の見直し		○	→					○				自主防災会、防災部	
	4 地域防災訓練	○		→					○					
	5 避難所開設、運営訓練	○		→						○			自主防災会、防災部、消防署、市	
	6 総合防災訓練 （個別訓練を総合的に実施、参加者拡大）		○								○			
	7 住民向け学習の場づくり （防災マップの周知、土砂災害警戒・避難行動等の情報提供、救急救命、弱者への配慮の検討、等）	○		→						○				
	2. 安全な地域づくり													
	1 防犯パトロールの実施	○		→								○		防交安部、警察署
	2 登下校児童の見守り活動 （体制の強化）	○		→						○			自治会、まち協	
	3 地域安全点検・改善要望	○		→								○		防交安部、小学校、小PTA、自治会、市、警察署
	4 国道176号の安全性向上	○		→								○		国、県、市、警察署
	3. 一人ひとりが守る交通規則													
	1 小学生自転車安全講習会（小学4年生）	○		→								○		防交安部、小学校、小PTA、警察署
	2 大人のための自転車安全講習会	○		→								○		防交安部
	3 駅前放置自転車対策（マナー指導）	○		→							○		防交安部	

【あとがき】

このたびのまちづくり計画改定にあたり、まちづくり協議会以外に、実に多くの人々にご協力いただきました。その中には、自治会員や新しく住民になった人、売布小学校の教職員、校区内で働く方、お店を営む人、ボランティアに勤しむ人、コミュニティ施設を利用する人…と、年齢・性別・コミュニティの違う多彩な方々が、忙しい時間を縫って参加してくださいました。

延べ数百人にもものぼるそれらの方々が、ご自分の所属するコミュニティで感じていた「このまちの課題」は、実に様々でした。「もっとこんなまちにしたい!」「もっとこんな設備・機能が欲しい!」「もっと行政や公的機関と連帯したい!」…会議のたびに上がるそんな「生の声」を聞きながら、我々スタッフが感じていたのは、みなさんの「売布のまちが好き」という強い気持ちでした。

今回提出したこの計画書で、それらの人々の思いすべてを盛り込めたわけではありませんが、1つ1つの文言の裏にある皆さんの思いを、少しでも感じていただければ幸いです。

それぞれの目標を達成するためには、経済面・法律面・施設面など様々な課題が横たわっていますが、コミュニティの違う人々が顔を合わせて思いをぶつけ合った経験は、それら課題を乗り越えるだけの強さがあると確信しています。ぜひ行政としてのできる限りのバックアップをお願いします。

○計画作成に携わった方々

2018年・19年 まちづくり協議会役員	まちづくり計画検討会議 参加者	2018年・19年ネットワーク会議参加団体		
上田 紘夫 笹田 光浩 野間健太郎 池田 修子 中川 常市 横山 浩 菅野 伸和 中尾 憲史 福高 維展 塚本 俊介 藤田 友子 箕尾 享三 福本 徳子 中野 俊朔 中島 健 村瀬 一郎 小玉いつ子 岡田 英里	麻尾 敏博 安藤 千紘 斉藤 恭信 島上慎三郎 田中 孝幸 板東 昭典 山本 信也 横井 時忠 坂田 和恵 清水ゆり恵 笹田 光浩 野間健太郎 池田 修子 菅野 伸和 福高 維展 福本 徳子 小玉いつ子 岡田 英里 (順不同)	清荒神自治会 泉ガ丘自治会 売布ガ丘自治会 売布北自治会 ピピアめふ2自治会 売布山手町連絡会 売布小学校 PTA 売布小学校区民生児童委員連合会 米谷・清荒神地車保存会 コープこうべ チャームスイート宝塚売布 Zukalle ひろば おしゃべりサロン こむの事業所 まいたに人権文化センター	清荒神5丁目自治会 泉ガ丘北自治会 第一売布ガ丘自治会 中山荘園自治会 売布園住宅自治会 OTA (売布小校区おやじの会) 売布小学校区人権啓発推進委員会 近畿ヤクルト販売 ケアローソン めふのお家 かがやきサロン サロンドボンジュール 宝塚市社会福祉協議会	荒神山手自治会 売布きよしガ丘自治会 売布自由ガ丘自治会 米谷自治会 宝塚売布住宅自治会 (有)ウッドホーム 電商組合宝塚支部 ほっこり庵 宝塚市手をつなぐ育成会 御殿山地域包括支援センター

○まちづくり計画見直し作業の歩み

2018年

2019年

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

臨時役員会
現状と課題の
検討

経営企画会議
アンケート調査の
検討

アンケート調査
売布小4・5・6年生
保護者

経営企画会議
アンケート調査結果、
ネットワーク会議の成
果の分析

ネットワーク会議
居場所・参加の
場づくり提案
事業の検討

ネットワーク会議
現状と課題の
検討

部会・経営企画会議
事業見直し
今後の事業展開の検討

2019年

2020年

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

経営企画会議
将来像・基本目標案
の検討

まちづくり計画検討会議
こんなまちになったらいい談義
「自然・環境」「青少年」「コミュニティ拠点」の3テ
ーマで今後の取り組み案の検討

ネットワーク会議
居場所づくり
バージョンアップ
検討

経営企画会議・役員会
中間まとめ

自治会
中間まとめ
の説明
提案募集

広報
将来像・基本目
標案の提示
ご意見募集

広報
ネットワー
ク会議にて
説明会

経営企画会議・役員会
最終案のまとめ

【資料】

別冊 資料1 売布小学校児童・保護者アンケート調査結果

地域ごとのまちづくり計画見直し過程で検討された取り組み提案（概要）

テーマ：青少年、子育て世代

《課題》

- 小学生・・・公園で遊んでいると怒られる
制約のない遊び場がない（ボール遊び等）
夏休みの子どもの居場所づくり
子どもを見守る人材が不足
- 中・高・大学生・地域とのつながりがない
活動の核となる人材の発掘
- 社会人・・・地域に居場所があるか？
得意分野を活かす仕組みがない。
- 子育て世代・・・必要な地域情報をキャッチできていない？

《取り組みアイデア》

ボール遊びができる場づくり

- ・公園の有効活用
- ・空きスペースの有効活用
(小さな公園の集約化)

青少年が主体的に参加したくなるイベント開催

- ・e-sports 大会を開催し、人材発掘・自然な交流の場づくり
- ・高齢者とも対戦できるゲームの選択

寺子屋づくり

- ・夏休み中の子どもの居場所づくりに向けた仕掛け人(チーム)づくり
- ・モデル事業の実施
- ・大学生等に有償ボランティアとして協力・指導してもらう仕組みの検討

テーマ：居場所・活躍の場づくり

《「居場所づくり」の課題》

- ・いろいろな活動や行事をしているが、参加していない人もいる。
参加のきっかけづくり、立ち寄りやすさが重要である。

《取り組みアイデア》

口コミでのお誘い
(簡単な紹介チラシを添えて)

地元の企業や商店との連携も
検討

駅前など、通りすがりに立ち寄れる場所で

- ・サロンの合同開催
- ・フリーマーケット

《「活躍の場づくり」の課題》

- ・地域にはいろいろな得意を持っている人がいる。このような人材に活躍してもらいやすい場づくりが必要である。

《取り組みアイデア》

地域で求められている人材を具体的に提示、登録してもらう

- ・花壇づくり
- ・下校時の安全見守り
- ・野外活動 などなど

小さくてもよいので、できることを積み上げていく

子どもでも誰でも、お客さんではなく、一緒に〇〇する仲間という運営方針で

テーマ：自然・環境

《課題》

- ・現状の花壇管理者が高齢者ばかりで後継者不足
- ・歴史や文化がある地域ではあるが、地域の人にPR不足
- ・自然を楽しめる遊歩道の整備・有効活用
- ・「自然・環境」をテーマとした人・組織の連携が弱い

《第一歩》

埋もれているその道のプロの発掘

- ・まちづくり協議会に自然・環境部立上げ
- ・自然・環境部に「歴史」「自然」「エコ」「生活環境」のチームをつくり、リーダーを公募
- ・それぞれに調査・研究を開始（自治会や団体と連携）

《取り組みアイデア》

《歴史》

- ・「売布の由来」「まちの成り立ち」などの情報整理
- ・発信方法の検討（「めふペディアづくり」等）
- ・小学校との連携策の検討

《エコ》

- ・目標の検討

《自然》

- ・自然観察会の実施
- ・春・夏のまち歩き・山歩き会の実施
- ・トレイルマップづくり

《生活環境》

- ・緑化・美化団体の活動支援
- ・オープンガーデンのノウハウ収集・活用

テーマ：コミュニティ拠点づくり

《今ある地域資源の有効活用》

- ・利用ルールに関する情報提供
- ・活用できる・してもいい空きスペース情報の収集
- ・「こんなことしたい」－「スペースを貸せる」のマッチング
- ・地域資源活用アイデアの募集
- ・地域全体を対象にした施設も参加したイベントの開催

《コミュニティ拠点に必要な機能》

- ・コントロールセンター：情報収集・発信
- ・コミュニティの住人全て（赤ちゃんから高齢者まで）が自由に集える場
- ・バリアフリーのトイレ
- ・まち協の事務所
- ・イベントで活用するものの倉庫
- ・イベントができるくらいのスペース
- ・自由度の高い利用ルール

《取り組みアイデア》

《協働でつくる》

- ・市は土地を提供
- ・市民が資金を集め、手作りで建物設置（空家活用、コンテナハウスなど）
- ・市民が管理

《課題》

- ・建設資金集め
- ・ランニングコストの確保

《イベント収益の積み立て》

- ・全自治会参加の祭・イベントの開催